

高女通信 ∞第5号∞

編集発行 群馬県立高崎女子高等学校

発行日 平成30年2月5日(月)

高女生の活躍

3年生は、大学入試センター試験が終了し、国公立大学への出願、そして私立大学の入試が始まりました。これからが、本当の正念場です。先生方も私大入試、国公立大二次試験に向けて全力で支援します。実力を発揮して合格を勝ち取ってくれるものと信じています。さて、12月、1月は部活動の新人戦がありました。主要な結果は、バレーボール部優勝、ソフトテニス部準優勝、バスケットボール部3位と大活躍でした。県高校作文コンクールでは、課題作文1位、自由作文1位をはじめ5人が入賞しました。また、音楽部が県音楽アンサンブルコンテストにおいて最優秀賞の金賞を獲得しました。本当に高女は、様々な能力、資質を持った多様な生徒が活躍できる学校です。それが高女の強みであり、良さです。そして、これからの1ヶ月が高女生の一年を締めくくる最後の決戦の時です。頑張れ高女生、3年生！

県高校新人バレー

高女 38年ぶりV



高いチーム完成度

群馬の高校バレーは変革期を迎えているのかもしれない。高さや力のある2強に対し、高崎女は徹底して磨いた運動量で突破口を開いた。リベロ増田結女主将は「レシーブで粘るチームをつくろうと頑張ってきて、決勝も良いリズムで戦えた」と自信を深めた。…決勝では、新免真帆や丸山理、森和佳葉、金子愛らが縦横に動いた。ゲーム主将のセッター勅使河原優夏は「両サイドから広い攻撃を徹底した。森や金子が、相手の隙を見つけて打てたのも大きい」とたたえた。

(上毛新聞 2018/01/28 より抜粋)

高女グローバル研修 in USA

12月10日(日)から12月20日(水)の11日間、1、2学年から40名の生徒が海外研修のためにアメリカへ渡りました。ボストンではホームステイをしながら語学学校へ通いグラマーとスピーキング指導を受け、独立戦争の記念碑などを巡るツアーに参加しました。ニューヨークでは、国連本部や美術館などを見学し、現地で働く高女OGの方と交流会をしました。語学力向上だけでなく、国際的な視野を広げ、自分のこれからの進路決定にも大きく役立つ充実した研修となりました。



語学学校でのレクチャー

ボストン歴史案内の様子



国連関係職員の講義の後の1コマ

学校保健委員会



12月11日(月)、1、2年生の保健委員、家庭クラブの生徒による学校保健委員会が実施されました。「カフェインとドリンク剤」「安全な食について」「昼食における栄養バランスについて」「教室の換気について」などの様々なテーマで活動報告が行われました。発表後は校医の先生から高い評価をいただき、また、さらに健康管理について学校歯科医・学校薬剤師の先生方から助言もいただきました。



県音楽アンサンブルコンテスト
高崎女高 最優秀の全日本連盟理事長賞

ハーモニーの美しさを競う第11回県音楽アンサンブルコンテスト

(県合唱連盟、県教育文化事業団主催)が1月28日、前橋市の昌賢学園まえばしホール

で開かれ、最優秀の全日本連盟理事長賞に高崎女子高音楽部Cが選ばれた。金賞を受賞した中から同部を含む8団体が3月10、11日に山梨県で開かれる関東アンサンブルコンテストに出場する。

(上毛新聞 2018/01/29 より抜粋)



全国大会・関東大会出場部

弓道部(個人)	全国高校弓道選抜大会(滋賀県 12/24-26) 滝沢夏帆
山岳部(個人)	全国高校選抜クライミング選手権大会(埼玉県 12/23-24) 米澤七海
放送部	関東地区高校放送コンクール(神奈川県 1/28) 朗読部門・オーディオビクチャー部門
吹奏楽部	西関東アンサンブルコンテスト(山梨県 2/4) トロンボーン四重奏
ソフトテニス部	新人大会兼関東選抜大会予選 団体2位 関東選抜大会出場(1/19-21 宇都宮)
新体操部	県高校新体操新人大会 優勝 全国高校選抜大会出場(3/23-25)

大学入試センター試験

1月13日(土)、14日(日)、県立女子大を会場にセンター試験が行われました。大きなトラブルもなく全員が無事に受験を済ませることができました。3学年の先生が会場まで応援に駆けつけ、自分のベストを尽くせるよう声援を送りました。



県高校作文コンクール
原沢さん(2年)・田嶋さん(1年)
最優秀賞

原沢佳那さんは中学に入学したばかりの頃、登校中に転んで困っているところを高齢女性に助けられた。その際に女性からもらった手鏡を優しさの象徴として描き、「困っている人に手を差し伸べる大切さを教えてもらった」とつづった。田嶋小春さんの作品は、現在の無気力な自分とマーチングに打ち込んだ中学時代を照らし合わせ、落ち込んでしまったことが題材。伯母に教わった方法で過去を消化し、人生を力強く未来に向けて生きていこうとする決意を書いた。(上毛新聞 2018/01/26 より抜粋)

